

体験談

鶴見先生のガン治療を体験して見えてきたこと



若川満

1. 自己紹介

広島市在住の若川と申します。よろしくお願ひ致します。

簡単に自己紹介させていただきます。今年で50歳になる会社員です。2014年6月に受けた人間ドックで胃に癌が見つかり、同年8月に胃の半分を切除しました。その後、主治医からステージIbであると告げられたのですが、切除した胃の末端まで癌細胞が確認されたことから、残胃にまだ癌が残っている可能性が高いと言われました。そして、再手術か経過観察かを選択するよう迫られました。セカンドオピニオン等を踏まえ、

最終的に経過観察となりました。ただ、筆者としては、手を拱いていただけでなく、何とか打開策を見つけてなければと代替医療の道を探り始めました。具体的には、高濃度ビタミン療法など、薬も掴む思いで順番に試していった次第です。

そんな状況が1年程度経過した頃、インターネットを通じて、鶴見クリニックで患者の会を主催しておられる天明さんと知り合うことができ、それが縁で鶴見先生(以下、先生という)の患者となりました。

2. 鶴見先生の言

先生から「あなたは腸の汚れによって癌になったのですよ」と言われました。ただ、筆者は胃に癌が生じたのであって、正直腑に落ちない面もあり、先生の著書を片端から読破していききました。その一冊である『断食でがんは治る』の中に、千島学説の記載(P156)があり、興味を覚えた筆者は関連する書籍等により、その学説の理解に努めました。

千島学説を一言で表せば「血液は腸で作られる」といったことで、普通に考えれば骨髄ですが、千島学説では骨髄で作られる場合もあるが、基本は腸で血液が作られる。また、炎症により癌細胞が生じるともありません。つまり、口に含んだ食品が消化器官により消化されつつ、最終的には腸で吸収され、血液となり体を循環する。

ただ、この血液が汚れていると、体の弱い部分に鬱血して、炎症を起こし癌化するのではないかと。筆者の場合それは胃であり、血を汚す食品の過剰摂取や、それに耐えきれなくなった腸の機能破綻により、癌化したのではないかと仮説を立てました。逆に、血液が浄化されれば、炎症も消え元の血液に戻る、つまり癌が消えることになりました。また、これは先生の治療方針である食生活や腸機能の改善等と合致するものですし、ファスティングについても、血液の製造工場である腸もフル稼働では疲れますし、定期的に不良在庫(宿便)を棚卸する必要

があると結論付けました。そして、この考えを踏まえた取組みにより、お陰様で再発することなく現在に至っております。

3. 癌の再発防止策

癌の再発防止に向けた具体的な取組みについては、割愛させていただきますが、先生の指導を踏まえ、生野菜(ジュースを含む)や発酵食品を中心とした食生活と定期的なファスティングの繰返しです。また、目的は癌の再発防止ですが、以下のとおり思わぬ副次的効果もありました。

①手術後はダンピング症状(低血糖・脱力感・めまい・息苦しさ他)や下痢・便秘を繰返していたが、現在そのような症状はなく、毎朝、先生が推奨する理想の便が出ている。

②手術前は36度以下であった基礎体温が36.5〜37.0度を継続維持している。また、血圧も上は150から110程度まで下がった(下は80前後で未だ少し高いが)。

③手術後、急激に頭頂部が薄くなり、

専門機関に相談したぐらいであったが、何の治療も施さず完全復活している。

④健康増進を目的に山登りを始めたが、5〜6時間歩いても疲れない。

のではないかと噂が立ちましたが、一切無視しました。この根底には「先生は本物である」との確信があったからこそできたことではないかと思えます。

最後になりますが、現在は多少の知識もあり、それなりに理解しているつもりです。しかし、癌が見つかった時点で先生が存在を知っていたとしても、果たして飛び込んでいく勇氣があったであろうかと考えます。その意味においても、手術や抗癌剤治療等を拒否し、自宅で頑張っておられる方々に対し、ただただ敬服するとともに、そのような方々こそ、癌を克服されるのではないかとおもいます。今回このような場をお与えいただき、有難うございました。心から感謝致します。

⑤朝立ちするようになった(笑)。
そして、最大の副次的効果は、20歳前半から悩まされていた偏頭痛、肩凝り、腰痛、吹き出物から解放されたことです。現在も仕事の疲れ等、たまに症状が出ることもありませんが、症状が軽くなり、治りも早くなりました。50歳を目前に人生で一番健康な日々を現在送っているのかもしれない。

4. 心構え

初診から2回目の受診まで8ヶ月ありましたが、その間、スケジュールに沿って、サプリメントはもちろん、キムチからヘキサシートに至るまで、先生から指示のあった事項を忠実に遵守しました。例えば、ゴルフコンペに人参とジャガイモを茹でた弁当を持参してレストランで食べたことなど、今でも鮮明に思い出します。また、70kgあった体重が手術で60kgとなり、更にファスティングで50kgとなったことから、社内では癌が悪化している

の場合、まだ経過観察中の身であることもありますが、とてもそんな心境にはなれません。癌が憎いですし、腹立たしいのが本音です。ただ、これを乗り越えるのも自分しかいないことも重々承知しております。冒頭で高濃度ビタミン療法等の代替医療について述べましたが、今振り返ると、治してくれる場所を探していたのです。しかし、癌は病院では治せません。自分で治すしかないので。いつの日か、心身ともに癌から解放され、天明さんのように人助けができる日が来ればよいのですが。

2015年4月頃初めは、尿管漏れかなと考えていたのですが、次第に回数が増えてきたので不正出血だと確信し、7月初旬最寄りのクリニックで組織診の検査をしました。その結果、まず子宮体癌に間違いのないとの事で日本赤十字社医療センターに紹介してもらい、再度CT等検査後やはり左悪性卵巣腫瘍と子宮体癌の結果が出ました。便秘では無いもののガスも出ていたので手術までに腸の状態を良くするために、岩盤浴や生野菜果

作田 洋子

リンパへの転移はなく、術後は義妹の天明さんの紹介で最初は1年前ぐらいから母が鶴見クリニックのファスティングを続けていましたが、自分はムリムリと言いつつ週末ファスティングも実行しなかつたことがこのような病気になることを反省しています。もうすぐこの8月で2年経過しますがファスティングとサプリメント、散歩、岩盤浴など行った結果、体調も大変良くなりました。最後になりましたが鶴見先生、紹介してくださった天明さん、家族の方、お世話になっている皆さまに感謝の気持ち一杯です。ありがとうございます。

